

## 島根県 松江圏域 総合水産基盤整備事業計画

### 1. 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

県東部に位置する島根半島東～中西部の松江市及び出雲市東部の沿岸部で構成され、主な漁業は定置網や小型底びき網、沖合底びき網、釣り・延縄、いか釣り、採介藻などである。また、宍道湖ではしじみ漁が営まれている。

漁業協同組合は、平成18年4月に合併により設立されたJFしまねの美保関支所、島根町支所、恵曇支所及び平田支所の外、中海漁協が置かれている。また、内水面では宍道湖漁協が置かれている。

##### ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域では、まき網、定置網、かにかごを基幹漁業とし、釣り・延縄、いか釣り、採介藻等の沿岸漁業も盛んに行われている。R2年の主要魚種の漁獲量は、ベニズワイガニが848トン、ブリが548トン、サワラ類が397トンとなっている。また、宍道湖等におけるヤマトシジミの漁獲量は近年4,000トン前後で推移しており、H26～R2年の島根県のヤマトシジミ漁獲量は全国トップとなっている。

つくり育てる漁業の取り組みとしては、毎年数万尾のマダイ、ヒラメの種苗放流の外、地域特産種として近年はアカアマダイの種苗放流も取り組まれている。恵曇漁港には公設のアワビ種苗生産施設が設置され、圏域各地でアワビ種苗放流が行われている。

##### ③ 水産物の流通・加工の状況

漁獲物のほとんどは陸路で30分～1時間30分の松江市場（港湾区域内の施設）と隣接県にある境港市場に出荷されている。

島根半島で生産される養殖ワカメは、乾製品である「板わかめ」に加工出荷されており、特産品としても有名である。

恵曇地区では古くから沖合底びき網などの漁獲物を原料とした塩乾品等の加工が盛んに行われているほか、出雲市小伊津地区の延縄で水揚げされるアカアマダイは「小伊津のアマダイ」のブランドとして、特に関西方面で高い評価を受けている。

##### ④ 養殖業の状況

島根半島では静穏な海域を利用したワカメ養殖が多く、多くの地区で営まれる。このワカメ養殖は、時化が多い冬場の沿岸自営漁業者にとって重要な収入源となっている。

また、島根半島の東部地区ではイワガキの養殖が営まれており、市内のイベントや飲食店に「松江イワガキ」として出荷されている。

#### ⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

	H26	R1	
経営体数	764	501	(▲263)
組合員数	3,164	2,795	(▲369)

近年、漁業経営体数、組合員数など減少傾向にあり、厳しい状況が続いている。

#### ⑥ 水産業の発展のための取組

島根県では漁業就業者の半数以上を占める沿岸自営漁業において、就業者の高齢化と後継者不足、また産出額の減少が深刻な状況。

こうした中、県では令和2年度に農林水産基本計画を策定し、「沿岸自営漁業の新規就業者確保と所得向上」を重点推進事項に位置付け、研修の強化や給付金制度の創設により、就業希望者の研修から自立、所得向上までを一貫支援し、沿岸自営漁業への定着促進を図っている。

#### ⑦ 水産基盤整備に関する課題

沿岸自営漁業の就業者数や産出額が減少している中、沿岸自営漁業や漁村を維持していくため、特に小規模な漁港の機能統合や再編、使われなくなった漁港施設の有効活用を図っていく必要があるが、漁業者の合意は難しい状況。

漁港施設の老朽化対策においては、全漁港で機能保全計画を策定し、老朽化が著しく対策が必要とされた施設について、重要度の高い施設から順次保全工事を実施。厳しい財政状況の中、現状では対策が必要とされた施設のうち、半数程度が未対策。

また、市町村管理の漁港（第1種漁港）では港勢など補助事業の採択要件に満たさず、老朽化対策が遅れている状況。

#### ⑧ 将来的な漁港機能の集約化

市場統合による集出荷機能や、給油施設、製氷施設など準備機能の集約化は概ね図られている。

漁船数が年々減少する中、係留施設（休憩機能）の集約化について、漁業者の合意は難しい状況。

現状では、漁港施設の統合や廃止等の予定はないが、漁港施設の有効活用も踏まえながら、関係者と今後検討していく。

(2) 圏域設定の考え方

①圏域タイプ	生産力向上型	設定理由； 島根半島沿岸で水揚げされた漁獲を魚市場に集約することで、水産物の生産、供給の強化を図る。
②圏域範囲	島根県松江市及び出雲市の一部（旧平田市）に位置する漁港	設定理由； 水揚げした魚を魚市場に集約することで安定した水産物の供給を図る。
③流通拠点漁港	該当なし	設定理由；
④生産拠点漁港	①恵曇漁港 ②小伊津漁港	設定理由； ①第3種漁港であり、当圏域において最大の港勢となっている。荒天時には、避難漁船が係留するなど、近辺の漁港に比べて安全性が高い。また防災安全意識も高く、津波を想定した避難訓練等も実施している。災害発生時には、緊急輸送として岸壁利用される予定。 ②第2種漁港であり、一定の港勢を有している。災害発生後も圏域内の生産拠点として機能を早期に回復させる体制が整備される漁港。また、「小伊津のアマダイ」としてブランド確立されているアマダイ等を漁獲する延縄漁業や一本釣り漁業が行われている。
⑤輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	4,564
圏域の総漁港数	25 漁港
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	19 港湾

圏域の登録漁船隻数(隻)	1,001
圏域内での輸取出扱量(トン)	—

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

当圏域の拠点は産地市場の側面を持ち市街地近郊に位置する消費地市場と、産地市場へ出荷するための中核的生産基地により構成されている。

消費地市場は、既存施設の老朽化が進行しており、今後、衛生管理型市場への移行が計画されていることから、主要出荷元である中核的生産基地においても、消費市場への水産物の供給にあたっての陸揚・陸送等において衛生管理向上に向けた検討を行い、圏域全体としての産地間競争力強化を図る。

また、生産拠点漁港において外郭施設等の改良を実施することで、漁業活動の効率化による生産性の向上を図る。

#### ② 養殖生産拠点の形成

該当なし。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

県が実施している水温定点観測（隠岐郡西ノ島町）において、約40年間で0.5程度の上昇を確認。主要な漁獲対象魚種ではサワラなどの暖海性魚類の増加も見られ、海水温の上昇が影響している可能性もあるため、こうした魚種組成の変化に注視し、水産生物の生活史にも配慮しながら漁場整備を進める。

圏域内の複数箇所において藻場が衰退しているとの漁業者からの声があり、藻場の回復が課題。

こうした中、県は水産環境整備マスタープランを策定（H27）し、減少傾向にある藻場の回復・保全を図るため出雲海域藻場回復ビジョンを策定（R4予定）し、海域環境のモニタリング、ハード・ソフトが一体となった対策を推進していく。

#### ② 災害リスクへの対応力強化

##### 【防災・減災対策】

大規模災害発生時において、地域経済・地域消費への影響を最小限に抑えるために、中核的生産基地において漁港施設の耐震・対津波等の防災対策を実施し、消費市場に水産物を安定的に供給する。また、高波、高潮発生時に漁船避難等が必要となる漁港においては、防波堤を嵩上げ改良し耐浪機能の強化を図る。

##### 【老朽化対策】

漁港施設の老朽化対策として、全漁港で機能保全計画を策定し、老朽化が著しく対策が必要とされた施設について、重要度の高い施設から順次保全工事を実施。

予防保全型の老朽化対策への転換は、財政状況・漁港の役割・施設機能等を考慮した優先順位を踏まえて検討する。

また、ドローンなどの機器や新技術の活用、「漁港施設点検システム」の導入、健全度に応じた日常点検レベルを設けるなど、日常管理の効率化・省力化に取り組む。

### (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### ① 「海業」による漁村の活性化

圏域内には、ダイビングなどの海洋レジャー施設や水産物レストランなど、若干ではあるが「海業」が営まれている。

現状では、漁港施設の統合や廃止について、漁業者の合意が難しく、実施の予定はないが、「海業」ニーズの掘り起こしや使われていない水域等の調査を進め、漁港施設の有効活用も踏まえながら、関係者と検討していく。

#### ② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁村の快適な生活環境を維持するため、老朽化した漁業集落排水施設等について機能保全計画に基づいた対策を実施する。

漁業就業者の高齢化や後継者不足が深刻な状況である中、船揚場の滑り材設置など、安全で働きやすい環境整備に取り組む。

## 3. 目標達成のための具体的な施策

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

防波堤及び護岸の嵩上改良、沖防波堤の新設等とあわせて良好な衛生管理を行うことにより、漁業活動の効率化による生産コスト縮減や競争力強化に取り組む。

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
小伊津	流通機能強化	農山漁村交付金 (地域水産物)	小伊津	2	生産拠点

#### ② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
該当なし					

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

海域環境のモニタリングを行い、モニタリング結果に基づいた魚礁・藻場礁等の整備を行うことで、漁場生産力の強化及び藻場の回復・保全を図る。

地区名	主要対策	事業名
出雲・石見	資源管理 藻場・干潟	水産環境整備

②災害リスクへの対応力強化

生産拠点である恵曇漁港及び小伊津漁港について、主要施設の機能診断が完了しているため診断結果に基づいた陸揚岸壁の耐震補強し、産地市場に水産物を安定的に供給する。また、防波堤を嵩上改良し、高波、高潮等への高波耐浪機能の強化を図る。

漁港施設の老朽化対策として、重要度の高い施設から順次保全工事を実施する。

保全工事コスト縮減のため、予防保全型の老朽化対策への転換を検討し、また新技術を活用して施設管理の効率化・省力化に取り組む。

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
島根	早期再開	漁港機能強化	恵曇	3	生産拠点
島根	早期再開	漁港機能強化	小伊津	2	生産拠点
野波	安全・安心	漁港機能強化	野波	1	
恵曇	予防保全	機能保全	恵曇	3	生産拠点
島根	予防保全	機能保全	御津	2	
島根	予防保全	機能保全	十六島	4	
島根	予防保全	機能保全	小伊津	2	生産拠点
松江市	予防保全	機能保全	片江	1	
松江市	予防保全	機能保全	多古	1	
松江市	予防保全	機能保全	野井	1	

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁村の快適な生活環境を維持するため、老朽化した漁業集落排水施設等について機能保全計画に基づいた対策を実施する。

漁業就業者の高齢化や後継者不足が深刻な状況である中、船揚場の滑り材設置などにより、安全で働きやすい環境整備に取り組む。

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
松江市	生活環境	漁村整備	御津	2	
松江市	生活環境	漁村整備	恵曇（手結）	3	流通拠点
松江市	生活環境	漁村整備	大芦	1	
松江市	生活環境	漁村整備	多古	1	
加賀	就労環境	漁港機能増進	加賀	2	

4. 環境への配慮事項

特になし

5. 水産流通圏域図

別紙のとおり

6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

該当なし

7. 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料

別紙のとおり

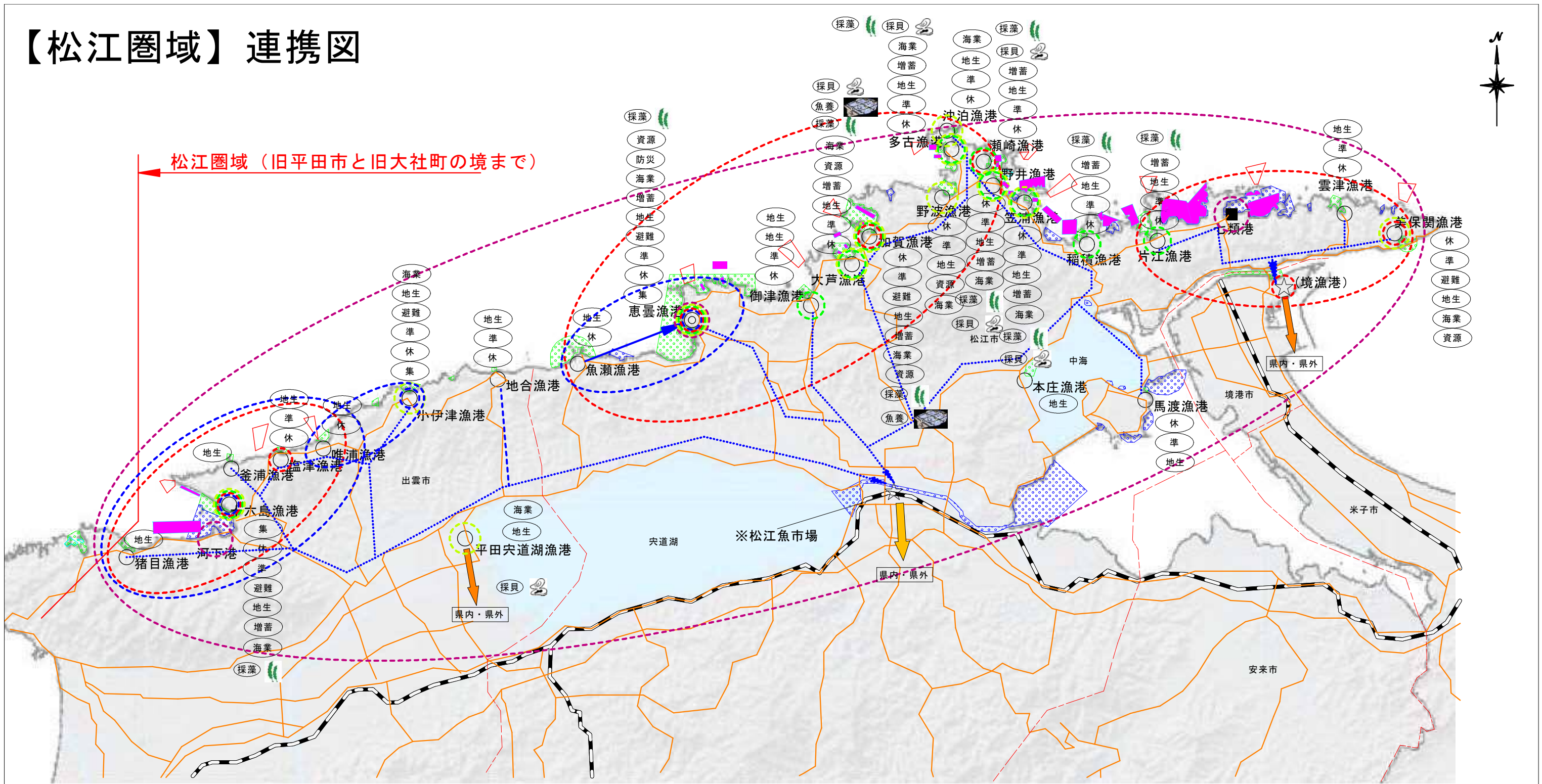
8. その他参考となる資料

特になし

# 【松江圏域】連携図



松江圏域（旧平田市と旧大社町の境まで）



6km

①集・出荷機能		現状の連携範囲		：現状の中心的な漁港
②準備機能		現状の連携範囲		：現状の機能を有する漁港
③増養殖・蓄養強化機能		現状の連携範囲		：現状の中心的な漁港
④海業振興機能		現状の連携範囲		：現状の中心的な漁港
⑤防災・減災機能		現状の連携範囲		：現状の中心的な漁港
将来的な連携範囲（5年以内）		5年以内を目途に実施する連携範囲		：5年以内を目途に実施する中心的な漁港
将来的な連携範囲（10年以内）		10年以内を目途に実施する連携範囲		：10年以内を目途に実施する中心的な漁港

集	集・出荷機能
休	休憩機能
準	準備機能
避難	避難機能
生活	生活基盤確保機能
地生	地先漁業生産機能
増蓄	増養殖蓄養強化機能
輸出	水産物輸出機能
海業	海業振興機能 (交流・観光・6次産業)
防災	防災・減災機能
資源	漁港区域内の観光資源

凡 例		出荷凡例詳細	
	漁港区域		流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点)
	港湾区域		生産拠点漁港
	区画漁業権		小規模漁港
	定置漁業権		水産業の盛んな港湾
	道路		水産物集約 (漁船陸揚)
	鉄道 (JR)		水産物集約 (陸送)
	産地市場		養殖に係る水産物の流れ
	加工場・消費地への出荷		養殖漁場

【主な漁業】

大量 (巻き網・底引き網等)    採藻    採貝    魚養

※消費地市場だが、実質的には産地市場